

Q17 知的障害児に対して、学校ではどのような指導が行われているのですか。

知的障害を持つ子どもには、教科の指導だけではなく、日常生活や社会生活に必要な知識や技能を指導する必要があります。

そこで、養護学校では、歯磨き・洗面・着替え・公共交通機関の利用の仕方といった日常生活の指導をはじめ、多岐にわたる指導が行われています。領域・教科を併せた指導として行われている生活単元学習（「一定期間、子どもの生活的目標を設定し、その目標達成に必要な不可欠の一連の活動を学習活動として組織する指導形態。活動内容として、季節や行事など、生活に結びついた単元を設ける。」*1）や作業学習もそのひとつです。

たとえば、生活単元学習として、野外活動（キャンプ）を中心に学習を展開させていくことがあります。実際にキャンプに出かける前に、キャンプの概要について教師から話を聞き、次に、どんなキャンプをしたいのか生徒がアイデアを出し合い、学校でテントを立ててゲームをしたり食事を作ったりします。その後、生徒たちは行事としての野外活動に出かけ、親元を離れての宿泊を経験することになります。野外活動の後では、学校で行ったキャンプや実際の野外活動について保護者も迎えて報告会を行います。

また、作業学習には様々なものがありますが、例えば、紙工（紙すき）・紡織（デザインマット作り）・窯業（鉛筆立ての製作）・農耕（一味唐辛子の袋詰め）といった作業が実際に行われています。

さらに、自立・社会参加のため、生徒会活動、委員会活動を積極的に行っている学校、クラブ活動を正課授業に取り入れている学校もあるようです。

健常児との交流についても障害児教育諸学校では地域の小・中学校と学校行事や作品の交換を手がかりに共同教育を展開したり、障害児学級では、給食、掃除、音楽、体育等について通常の学級に通ったり、放課後の生活を教育的に組織する学童保育事業や児童館活動、夏のキャンプや水泳教室等で健常児との交流を進める取組みを行っているところもあります。

ただ、いずれも困難を抱えながら教育が行われているのが現状のようです。

*1 東北大学教育ネットワーク「ほっとママ」のホームページ

(<http://hotmama.sed.tohoku.ac.jp>) から引用

参考文献

*大阪障害者センター編集委員会・編「障害児教育Q&A」

*全国障害者問題研究会「障害者問題一問一答」70～71頁